

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	兵庫県立 和田山特別支援学校 職・氏名 教諭 小西 敏宏	研究チーム名 (生徒理解・指導法研究チーム)
-----------------	---------------------------------	-----------------------------

研究テーマ分類番号 (8)

(1)研究テーマ
障害の多様化における生徒理解と指導法の研究
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>1 自然体験活動における生徒理解と指導法の考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期 7月8日(木)、7月9日(金) ・考察方法：中学部(肢体不自由の生徒7名と知的障害の生徒4名)を対象とし、各体験施設や宿舎での生徒間のかかわりを考察する。 ・考察結果：体験施設や宿舎において、肢体不自由の生徒と知的障害の生徒が行動を共にし、楽しく会話したり、食事をしたりする姿が見られた。 ・成果と課題：宿泊行事ということで、障害種を超えた生徒同士の自由な交流が見られ、生徒理解につながった。しかし、具体的な指導法の検討には至らなかった。 <p>2 なごみカーニバルにおける生徒理解と指導法の考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期 10月30日(土) ・考察方法：中学部(肢体不自由の生徒7名と知的障害の生徒8名)を対象とし、学習発表会による生徒間のかかわりを考察する。 ・考察結果：舞台上の移動において、知的障害の生徒が肢体不自由の生徒を手伝う様子がみられた。また、台詞や立ち位置など、お互いに声かけをし、友だちを気遣う様子もみられた。 ・成果と課題：2学期の中盤ということで、生徒同士がお互いのことをよくわかってきたようである。生徒間のかかわりにおいて、障害種にとらわれない、仲間意識が少し高まったように思われる。しかし、友だちとコミュニケーションを図る中で、言葉使いが乱暴な生徒もいるので、有効な指導法の検討が必要である。 <p>3 英語における生徒理解と指導法の考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期 6月～11月 (週1回) ・考察方法：中学部(肢体不自由の生徒1名と知的障害の生徒1名)を対象とし、週1回の英語の授業による生徒間のかかわりを考察する。 ・考察結果：学習において、友だちに教えたり、教えてもらったりと相互にやりとりが見られ、学習意欲が日を追うごとに高まっていった。 ・成果と課題：それぞれの生徒の障害特性を踏まえた指導の重要性がわかった。教材の提示の仕方や文字の大きさ、支援の度合いなどの具体的な指導方法の検討が今後の課題である。